

平成 22 年東御市議会第 4 回定例会

市長招集あいさつ

(平成 22 年 12 月 7 日 午前 9 時 00 分開会)

はじめに

浅間の嶺が雪化粧をし、澄み渡った空に白い頂^{いただき}がひと際映える季節となりました。冬のたたずまいが日ごとに深まり、東御の里にも本格的な冬將軍の到来間近を感じさせる今日この頃であります。

本日ここに平成 22 年東御市議会第 4 回定例会を招集申し上げましたところ、議員各位におかれましては、歳末を控え公私共に何かとご多端の折り、定刻にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

今般提出致します議案をはじめ、市が直面致します喫緊にして重要な案件や課題の審議につきまして、議員各位の特段のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

諸般の情勢

さて、日本経済の情勢につきましては、一昨年来の世界同時不況の影響から依然として脱却できずに、閉塞感^{へいそくかん}が漂^{ただよ}っております。

内閣府の発表によりますと、7月から9月期の国内総生産（GDP）の成長率は、物価変動の影響を除いた実質で前期比0.9%の増、年換算率で3.9%の増となり、1年四半期連続のプラス成長となりました。これは、この夏の猛暑効果による関連商品の消費の好調、エコカー補助金の終了やタバコの値上げなどを睨^{にら}んだ駆け込み需要による個人消費の大幅な増加が大きく寄与したものとされております。

しかし、一方で、こうした消費の伸びは一過性のものとなる可能性もあり、今後はその反動による減少が見込まれ、先行きの不透明感も残されております。生活実感に近い名目GDPは、年率換算で2.9%の増と、実質GDPの伸び率を下回っており、デフレが続いていることを裏付けております。

また、11月18日に発表された政府の月例経済報告の中では、経済の基調判断を「景気は、このところ足踏み状態になっている。」とし、雇用情勢においても、来春卒業予定者の就職内定率は過去最低を記録しており、更なる悪化が懸念される状況にあります。デフレ不況による経済の停滞とデフレスパイラルへの^{きぐ}危惧から社会全体に不安を残すところでもあります。

市と致しましては、今後も、企業の皆様を対象にした融資枠の確保をはじめ、生活対策に関しましても、離職等により経済的に困窮した方々の生活再建を図るべく、福祉や住宅、納税をはじめ市民相談を充実させ^{こんせつていねい}懇切丁寧な対応を行うとともに、引き続き関係機関等と密接な連携を図りながら、市民生活の安定を最優先に、可能な限りの対策を講じてまいります。

こうした中、国においては、「新成長戦略実現に向けた3段構えの経済対策」・「円高・デフレ対応のための緊急総合経済対策」を立て続けに閣議決定し、それにもとづく経済対策に係る補正予算が先月末に国会で可決されました。

今回の補正予算における経済対策のうち、新たに創設された「地域活性化交付金」に地方交付税の増額分を加え、地域の活性化のために総額で2兆800億円が見込まれております。

具体的な配分額等詳細については、現在国において制度設計を含めて進められている段階でもあり、決定があり次第、前年度と同様に（臨時議会をお願いし）迅速な対応を図ってまいりたいと考えております。

また、県においても、現在開会中の県議会に総額 1 6 0 億 7 , 8 0 0 万円の補正予算が提出されており、そのうち経済対策関連が 1 5 6 億 3 , 6 0 0 万円を占めており、一刻も早い経済対策を切望するものであります。

市と致しましては、国や県の対策と呼応して、地域経済の活性化と雇用の創出、人材の育成を目指して、よりの確で効果的な対策を講じてまいります。

併せて、「県政の刷新」を掲げる阿部知事に対しては、県全体のみならず、基礎自治体としての市町村の思いを汲んだ安定した県政、市町村との協調を期待するとともに、前例にとられない発想のもと、「市民の為」を主眼として県との良好な関係が構築できるよう、引き続き尽くしてまいりたいと考えております。

国の平成 23 年度一般会計予算の概算要求に関しましては、成長戦略やデフレ脱却に活用する特別枠と合わせた総額が 9 6 兆 7 , 4 6 5 億円と過去最大規模となりましたが、地域主権改革の一環として、国庫補助金の一括交付金化をはじめとする様々な制度の見直しが検討されております。

更に、「地域主権改革」や「社会保障改革」など、政府による政策転換が進む中、衆参両院において多数派が異なるねじれ状態が国政の停滞を招けば、経済・雇用対策など、本市の市政運営にも大きな影響を及ぼすことから、今後の国政の動向には十分に注視してまいりたいと考えております。

^{ひるがえ}翻って、本市においても、こうした国や県の状況と実際の現実を直視する中、当面の間、税収の大幅な減少を見込みつつ、来年度の実施計画の策定と新年度予算の編成作業をスタートさせたところであります。

健全財政の堅持を基本に、最小の経費で最大の効果を上げるよう行財政の簡素・効率化を図りながら、一層の経費の節減・合理化と財源の重点

的配分に徹し、事務事業の「選択と集中」を念頭に、「持続可能な美しい東御市」の実現に向け、^{かんだん}間断なき発展を期した予算編成になるとともに、普通交付税の、合併に伴う^{さんていがえ}算定替の終了を^{にら}睨み、一般財源の計画的な縮減を事務事業の積極的な見直し（東御市版事業仕分け）により実施するよう方針を示しました。

とりわけ、最終年度を迎えた「東御市行政改革大綱」・「集中改革プラン」や「定員適正化計画」の集大成により歳出の削減と財源の確保を図り、後期基本計画の着実な推進に加え新年度の重点施策に傾注させたいと考えております。

市政をお預かりする責任者として市の進むべき方向を^{さししめし}指し示し、確実な一步を踏み出すべく、市民の皆様が真に求める様々な施策を展開してまいります。

その考えの一端を、補正予算や条例の改正を通して今回の議会定例会にお示しさせていただきます。議員各位をはじめ、市民皆様方のご理解とご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

市内のうごき

ここで9月定例会以降の市内の動きを振り返りますと・・・

(10月3日「東御の日」は、エポックな日)

「東御の日」は平成18年に制定され今年で5年目を迎え、「10月3日は・・・東御の日」がすっかり定着してまいりました。

この日は、市にとって大きな意義を持つ日となりました。

当日は式典において文化・スポーツ・交通安全・消防等各分野で功績

功労のあった皆さん5名に加え、花いっぱいコンクールに応募のあった20点のうち各賞に輝いた13名の皆さん、更には、昨年に引き続き食育推進事業の一環として開催した親子料理コンテストで応募のあった17組のうち入賞された5組の親子の皆さんにも表彰状を手渡しました。

記念講演会では、半世紀に一度の大事業となる舞台が丘整備の基本的な設計理念について、設計を司っていただいた芝浦工業大学・中野教授ご本人の生のお話を伺う事が出来ました。

また、この日、合併以来の懸案でありました、市からの防災・行政情報伝達システムに関して、熟慮の結果「コミュニティFM放送」を選択し、市民の皆様からの出資をいただく中で、安全・安心のまちづくりのシンボルとして、エフエムとうみを開局、放送開始を致しました。

災害時はもとより、身近な情報をタイムリーにお伝えする手段として、必ずやコミュニティの醸成に寄与するものと確信しております。

(お元気な高齢者)

高齢化が急速に進む中、市内の高齢者が、お元気に活躍されています。

9月29日・30日の二日間にわたり敬老祝賀訪問を実施しました。

今年度中にめでたく88歳米寿を迎えられた方が150名、99歳白寿が13名、100歳の長寿者は3名おいでました。

東御市の基礎を築いていただいた皆さんには、地域の知恵袋・生き字引として、今後も健康で長生きをして欲しいと願うものであります。

また、^{えんおう}鴛鴦の契りを結ばれ50年の^{いくせいそう}幾星霜を互いに手を携えてめでた

く金婚を迎えられた「^{めおと}夫婦の^{かがみ}鑑」65組の皆さんご参加のもと、9月26日に金婚祝賀式を行ないました。

更に、北御牧地区では、区長会を中心に結成された実行委員さんにより地区の敬老会が盛大に開催され、地域の小中学生の奏でる音楽やアトラクションに目を細めて見入っていました。

(「祭の秋」・・・)

「収穫の秋」は、同時に「お祭りの秋」でもあります。

市内では本年も、9月18日・19日に「巨峰の王国まつり」、10月9日・10日に「火のアートフェスティバル」、11月23日に「海野宿ふれあいまつり」が、それぞれ実行委員会の皆様のご尽力の下に秋のシーズン毎月には亘りビッグイベントが続きました。

一部、天候の影響を受けましたが、県とJRを中心に大々的に取り組まれている信州デスティネーションキャンペーンとも連動し、連日の賑わいの中、ご来場の皆様には東御の秋をご堪能いただけたものと確信しております。

いずれのイベントも20回前後の回数を重ね、秋の風物詩として定着してまいりましたが、それぞれに新たな展開を模索する時期をも迎えているものと感じております。

(「スポーツの秋」・・・快挙続く)

「スポーツの秋」、市では市内各施設で総合体育大会を、芸術むら公園でマラソン大会を、市内全地区を巡回するコースで駅伝大会を開催いたしました。

特に10月3日、東御の日制定後初の10月第1日曜日に重なり開催された総合体育大会には、20の競技種目に3,000人を超す市民の皆様の参加をいただき、技術やチームワークを競い合い、市の推し進める「一人1スポーツ運動」の着実な浸透が伺えた一日でもありました。

そんな中、県大会や全国大会で活躍する報告が舞い込んできました。

10月に草津温泉で開催された第20回文部科学大臣杯争奪マレットゴルフ大会で西宮の山越さんが優勝の快挙を、更に、先月開催された第59回長野県縦断駅伝競走において、当市から出場の北沢・出口の2選手が昨年に続き重要区間を快走し、「上田東御小県」チームの一員として、栄えある総合準優勝に貢献されました。

いずれの皆さんも市の誇りであり、これから後に続こうとする皆さんの目標ともなり、励みともなるものであります。

(「芸術・文化の秋」・・・公民館活動の成果)

「芸術・文化の秋」、中央公民館での総合文化フェスティバルや短詩型文学祭をはじめ、各地区公民館主催のふれあいのつどいや作品展、区公民館でのつどいや作品展が其々の特色を醸し出しながら開催され、今年も芸術・芸能・文化をはじめおらほの腕自慢の見事な作品の数々が並び、日頃磨いた芸の発表がなされました。

生涯学習を通じて「学ぶ」姿は、年齢を問わずに美しく、今後の中央公民館の改修にあたり、学ぶ「やかた」が如何にあるべきか、利用される市民の声を反映したものにしていきたいと思えます。

また、国際読書年に際し、本年初めて読書感想コンクールを実施したほか、ノンフィクション作家の柳田邦男さんには、「ネット社会と子どもの人間形成」と題したご講演を通して、新しい図書館づくりのための大事なご示唆をいただきました。

(「食欲の秋」・・・くるみの再生)

「食欲の秋」、市では、10月10日サンファームにおいて初めての試みとして「くるみ収穫体験ツアー」を開催致しました。

定員を遥かに上回る応募があり、参加者の皆さんは生食のくるみ独特の甘さに舌鼓を打っていました。

11月20日には道の駅で「くるみ祭り」が開催され今年収穫されたくるみの品評会が行われ、催しの一環として滋野地区活性化協議会の皆さんにより「くるみ料理コンテスト」も行われました。

多数の出品があり、「東御のくるみ」の地位回復に一役買っていたいただいと評価しております。

(頑張る東御っこ)

この間、市内の子どもたちの躍動する姿があちこちで見受けられました。

田中小学校、東部中学校の吹奏楽部の皆さんは、今年もまた県大会で優秀な成績を収め、揃って東海大会に出場を果たしました。

11月13日、市の消費生活展が「子どもたちに伝えよう！美しい環境 - 今私たちにできること」をテーマに開催され、祢津小学校3年生が春から取り組んだ、ハヤシミドリシジミの卵を孵化させ、城山へ蝶を放すまでの飼育記録を発表し、北御牧中学校選択技術専攻の3年生が製作し全国大会に出場したエコカーも披露されました。

また、東御くらしの会が平成5年から行ってきた牛乳パックの回収と再生紙商品の共同購入の取り組みが評価され、リデュース・リユース・リサイクル（3R）推進協議会の会長賞を受賞し、作業の手伝いに携わった東御清翔高校の生徒会の皆さんとともに、循環型社会に向けた地道な活動に対し賞賛を受けました。

この三ヶ月ばかりの間の主な動向について申し上げましたが、「小さくともキラリと光る東御市」に向けての光明が各分野において幾筋も見え始めたことを大変嬉しく思っております。

今後も、私自身が確実な一步を踏み出し、引き続き初心を忘れずに誠心誠意市政に携わってまいり所存でございますので、市民の皆様並びに議員各位におかれましては、尚一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

本定例会の上程議案

それでは、本定例会に提案致します議案につきまして、順を追ってその概要を申し上げます。

(平成 22 年度補正予算について)

最初に、平成 22 年度の補正予算につきまして申し上げます。

今回の補正予算は、9 月補正予算編成以降の諸事情により必要が生じた新規の事務・事業費や、国県補助の内示等に伴う事務費及び財源の調整につきまして、関係経費を計上致しました。

議案第 77 号から議案第 82 号まで、一般会計、特別会計、事業会計合わせて 6 件でございます。

まず、平成 22 年度の一般会計補正予算第 4 号でございますが、歳入歳出予算に 7,373 万 1,000 円を追加して、総額を 133 億 6,155 万 9,000 円と致すものです。

その主なものは、

- ・舞台が丘整備庁舎仮設工事費 のほか
- ・舞台が丘整備に係る庁舎仮設及び取り壊し工事の債務負担行為
- ・御牧乃湯施設全体改修事業費の債務負担行為

など、次年度の主要事業に向けての本格的着手に際して、必要な経費をお願いするものと、

- ・住宅用太陽光発電施設導入補助金
- ・有線テレビに係るデジタルチューナー購入費
- ・市単独土地改良事業補助金
- ・松くい虫防除対策事業
- ・小学校防火設備修繕工事
- ・海野宿資料館修繕工事
- ・竹内不忘作品台座修繕
- ・保育園改築基本設計プロポーザル経費
- ・県議会議員選挙費

等の増額補正を行うものであります。

また、人件費につきましては、人事異動及び給与改定に伴う減額補正のほか職員退職手当の増額補正をお願いするものでございます。

これらの財源といたしましては、国県支出金、基金繰入金、繰越金などを充てるものでございます。

このほかに、国民健康保険特別会計、老人保健特別会計、介護保険特別会計、水道事業会計、下水道事業会計の補正をお願いするものでございます。

一般会計の詳細と特別会計（国民健康保険特別会計、老人保健特別会計及び介護保険特別会計）事業会計（水道事業会計及び下水道事業会計）につきましては、それぞれ担当の部長等から細部にわたり提案の説明を申し上げることとなりますので、よろしくお願い申し上げます。

(条例の廃止・一部改正について)

続いて、条例の一部改正につきまして申し上げます。

議案第 76 号及び議案第 83 号から議案第 85 号まで既存条例の廃止等並びに一部を改正するもの、4 件でございます。

そのうち、議案第 76 号「東御市一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例」は、職員の給料月額、期末勤勉手当の額を改定するものでありまして、併せて特別職の職員及び議員各位の期末手当の額の改定を行うためのものであります。

期末勤勉手当の基準日が 12 月 1 日であり、法の定めにより 11 月 30 日に行った専決処分について、「地方自治法」の規定に基づき、議会に報告をし、承認をお願い致すものでございます。

議案第 83 号「東御市オフトーク通信条例を廃止する等の条例」については、「東御市オフトーク通信条例」を廃止し、併せて「東御市地域情報交流施設条例」並びに「東御市営住宅管理条例」の一部を改正するものでございます。

行政情報や非常災害情報等、市民生活に必要な伝達に関する新たな手段としてコミュニティ FM 放送が確保できたことから、オフトーク通信

並びに有線放送事業を平成 23 年 9 月末をもって廃止すること、更には有線放送電話と関係施設の老朽化と、代替通話手段の普及により電話機能を平成 24 年 3 月末をもって廃止とするものであります。

議案第 84 号「東御市子育て支援センター条例の一部を改正する条例」は、舞台が丘整備事業に伴い当該部門の仮設事務所への移転によりその住所を変更するためのものであります。

議案 85 号「東御市保育所条例の一部を改正する条例」は、現在改築工事に伴い仮設園舎にある祢津保育園につき、工事の完成により新園舎にその住所を変更するためのものであります。

それぞれ担当の部長から細部に亘り提案の説明を申し上げますので、宜しくお願い申し上げます。

(事件案件)

また、議案第 86 号につきましては、当該施設の指定管理について、「地方自治法」第 244 条の 2 第 6 項並びに「東御市公の施設の指定管理の指定手続き等に関する条例」第 3 条第 1 項の規定により議会の議決を求めるものであります。

今回、新たに体育施設と中央公園施設の管理に関して指定管理制度を導入致したく提案させていただくものです。

議案第 87 号「上田地域広域連合規約の変更について」及び議案第 88 号「上田地域広域連合上田勤労者福祉センター運営移管に伴う財産処分について」は、上田地域広域連合が設置する当該施設を平成 23 年 4 月 1 日から上田市に移管するに当たり「地方自治法」の規定により議会の議決を求めるものであります。

議案第 89 号「市の区域における小諸市市道の路線の認定について」は、東御市の区域において小諸市市道の路線を認定するに当たり、「道路法」の規定により議会の議決を求めるものでございます。

詳細につきましては、それぞれ関係部長から提案の説明を申し上げることとなりますので、宜しくお願い申し上げます。

(人事案件)

最後に、議案第 90 号及び議案第 91 号につきましては、人事案件として法務大臣に対する人権擁護委員候補者の推薦について、「人権擁護委員法」の規定により議会のご意見を伺いご同意をお願いするものでございます。

むすびに

以上、本定例会に提案致します議案につきまして、その概要を申し上げます。

十分にご審議をいただきますとともに、それぞれの案件につきましての承認・ご決定を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

地方自治体を取り巻く環境は、一昨年の秋以降の世界的な景気後退に伴い、更に厳しさを増しておりますが、このような時期にあたり、3万2千市民の皆様が安全と安心を実感できる暮らしの実現を目指して、自立したまちづくり、安定した市政運営を進めるべく、今後も「現地現場主義」をモットーにリーダーシップを発揮しつつ、市職員と一丸となって

ふんこつさいしん せいしんせい
粉骨砕身、誠心誠意努めてまいることが改めてここにお誓い申し上げ本定例議会招集のごあいさつと致します。